

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：情報メディア学科

資格：講師

氏名：肥後 有紀子

研究分野	研究内容のキーワード
情報デザイン、メディア・アート、デジタル・コンテンツ	グラフィック・デザイン、ウェブ・デザイン、メディア・アート、芸術と科学、写真、映像、表現技術
学位	最終学歴
修士（芸術文化学）、学士（芸術）	大阪芸術大学大学院 芸術研究科 博士後期課程 単位取得退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
事項	年月日	概要
1. 子ども向け博物館用デジタルコンテンツ制作（PBL）	2013年12月1日2014年6月30日	博物館から提示された企画展テーマを、子ども達に伝えるためのストーリーや表現手法を考えるとともに、最新のコンテンツ制作技術を通して、子ども向けのデジタルコンテンツによる教育の可能性を考察。クライアントとの意見交換や学内でのグループミーティングを経て、AR（拡張現実）、プロジェクションマッピング、クロマキー合成映像の3つのデジタルコンテンツを完成させ、展示を行った。展示期間中は実際に館内でボランティアとして案内業務などに携わり、子ども達と触れるなかから、子どもの学びのためのコンテンツ制作のありかたを学ぶ。（ゼミでの取組）
2. ウェブ制作科目における課題解決型学習（PBL）	2012年4月～現在	実際のウェブ制作の現場のプロセスを取り入れ、各班をクライアントと制作会社という立ち位置を設定した上で、ウェブサイト制作を行う。数回の打ち合わせを経て、クライアント班の希望を理解し、どのように情報発信を行うかを考え、その上でデザインとコーディングを行う。制作過程においては、クライアント班、制作班相互での情報提供、意見交換を経て、ウェブサイトを作成させる。「ウェブ・スタンダード演習（2年次前期）」
3. 展示研究（学外）	2012年4月2014年3月	ギャラリー、展覧会など学外における作品展示研究。情報発信のプロセスの一環として、制作技術と学内展示を学んだ学生が、学外の不特定多数の人へ向けて発信するための展示計画および設営の研究。フロアでの人の動線を意識し、展示空間の照明や音量に配慮し、映像、ポスター、メディア・アート、写真など多岐にわたる視覚表現をどのように見せ、伝えることができるかを学ぶ。（ゼミ）
4. ミュージアムショップ商品デザインの企画制作（PBL）	2011年～現在	学生主体となり、与えられた課題を解決する、実践的な取組。国立民族学博物館併設のミュージアムショップ（千里文化財団）向けの商品デザイン制作を行う。関西のミュージアムで実地調査を行い、商品の傾向や適したデザインについて考察。その後、クライアントとの意見交換や学内でのグループミーティングを経て、デザインを完成させる。（商品化済み。ゼミでの取組）
5. 展示研究（学内）	2010年9月～現在	情報発信のプロセスの一環として、制作技術を学んだ学生が、実際に不特定多数の人へ向けて発信するための展示計画および設営の研究。フロアでの人の動線を意識し、展示空間の照明や音量に配慮し、映像、ポスター、メディア・アート、写真など多岐にわたる視覚表現をどのように見せ、伝えることができるかを学ぶ。（ゼミ）
6. 映像制作における課題解決型学習（PBL）	2010年9月～現在	実在の企業をクライアントとして設定し、クライアントより提示された企業の抱えるテーマ、製品コンセプトを理解し、15秒（あるいは30秒）のCM制作を行うといった、課題解決型の取り組み。実際に企業に参加してもらうことによって、社会に参加する一員としての自覚を促し、社会に対する情報発信とはあり方を意識する。既存のCMの分析を行うことで、映像リテラシーも向上する。「広告メディア演習（2年次後期）」
7. 小テストによる持続的教育	2009年4月～現在	小テストを頻繁に実施。学習した内容とその応用問題を出題する。教科書や資料、ノートを確認しながら受講者自身が採点を行う。自分の理解力を自分で確認することができる。小テストは回収し、受講者の理解度を判断する。「デジタル・デザイン論（1年次前期）」
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 関西大学公開講座	2007年10月	「デジタル・テクノロジーの発展と芸術表現」生涯教育講座として、高槻市民を対象として開講。メディアの発達とともに変容し続ける芸術について。
2. ひょうごオープンカレッジ	2005年7月	生涯学習講座として、中高年を対象にマルチメディア制作やウェブサイト制作を指導。
3. ひょうごIT&A学生グランプリ	2005年3月	審査員（静止・動画等デジタル・コンテンツ作品の審査

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. 兵庫県立西脇高等学校 特別非常勤講師	2004年11月2007年11月	）。小学生から大学生までの作品3000点を審査。 兵庫県立西脇高等学校に赴き、年に1度、二日間の日程でコマ撮りアニメーション制作の指導。企画、撮影、編集について、実際の作例を元に解説。撮影にしようする材料などは、身近にあるものを使用する。機材は一般的なパソコン及び民生用デジタルビデオカメラ。
5. 京都嵯峨芸術大学 生涯教育講座	2003年5月2003年11月	二次元コンピュータグラフィックスアプリケーション (Photoshop, Illustrator) の技術指導及び、紙製の作品制作指導 (カレンダーやハガキ、名刺)。対象は中高年。使用機材はMacOSであるため、OSの基本操作についての解説も含む。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. グラフィック・デザインとデジタル・テクノロジー —前田ジョンの作品にみるデジタル・デザインの方法—	単	2006年3月	大阪芸術大学大学院 (修士論文)	デザイナーの道具としてのコンピュータが普及し始めた1990年代中頃、前田ジョンはプログラミングといった、他のデザイナーとは違った独特の手法によって作品制作を行っていた。前田活動の目的は二つに分かれており、一つは、デジタル・メディア ならではの表現の提案であり、もう一つはコンピュータに計算による表現と、計算によらない表現の溝を越える掛け橋を築くことであった。前田の作品を中心に、デジタル・テクノロジーを使用したデザイナーの職人性について考察する。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. デジタル・テクノロジーを用いた視覚情報表現と「女子力」～ 武庫川女子大学を事例として	単	2012年9月27日	電子情報通信学会 モバイルマルチメディア通信研究会	
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
1. 「芸術と記憶」ポスターデザイン	単	2013年5月9日	藝術学関連学会連合	藝術学関連学会連合第8回シンポジウム (2013年6月8日開催) のためのポスター、フライヤーデザイン。
2. 「都市のアーツ・アンド・クラフツ」ポスターデザイン	単	2012年6月	大阪大学美学研究室・科研基盤研究 (A) 「アーツ・アンド・クラフツと民藝」	シンポジウムのためのポスター、フライヤーデザイン
3. メディアアート作品 「人」と「間」	共	2012年10月21日～11月24日	西宮船坂ビエンナーレ2012	研究室として参加し、メディアアート作品展示を行う。人の影をカメラにより認識し、影と影の距離をグラフィカルに表現。
4. 「国際デザイン会議2008」各種グラフィックデザイン	単	2008年8月	国際デザイン会議2008	論文集表紙デザイン、紙面レイアウト、国際会議に使用するパンフレット等の表紙デザイン・エディトリアルデザイン
5. 「工芸運動と芸術の近代」及び第5回国際デザイン史フォーラムフライヤーデザイン	単	2007年3月	国際デザイン史フォーラム	国際フォーラム「工芸運動と芸術の近代」、第5回国際デザイン史フォーラムのシンポジウムのためのフライヤーデザイン

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
6. 「公州2006「芸術と福祉」国際会議」ポスターデザイン	単	2006年8月	公州2006「芸術と福祉」国際会議	国際会議のためのフライヤー・ポスターデザイン
7. 「DesignDiscourseJapan」表紙・エディトリアルデザイン	単	2006年5月～2008年	デザイン史フォーラム	研究誌「DesignDiscourseJapan」表紙デザイン、エディトリアルデザイン
8. 意匠学会「デザイン理論」表紙デザイン	単	2005年～2009年	意匠学会	学会誌「デザイン理論」表紙デザイン
9. 倉敷2005「芸術と福祉」国際会議ポスターデザイン	単	2005年	倉敷2005「芸術と福祉」国際会議	国際会議のためのフライヤー・ポスターデザイン
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2004年	映像学会
2. 2004年	意匠学会